



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2019年4月1日

4月号・第207号

奈良・人と自然の会

〒630-8001

奈良市法華寺町 888-7

会長 鈴木 末一



＜そば畑へのチップ入れと耕起＞



Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>



壮春力歩	1	椎茸菌打ちイベント・報告	9
Monthly Repo. ならやま	2	字遊字感	10
私のふるさと	3	豆知識	11
里山の今	4・5	Galleryならやま	12
虫だより、花だより	6	ならやまプロジェクト	13
ならやま投句箱	7	行事案内・青垣春秋	14
ならやま西池の生き物	8	幹事会報告・編集後記	15

壮春力歩

会長 鈴木 末一

「評価」という営みについて

私たちの本当の価値を見つけてみようではありませんか。そもそも何故プロジェクト活動(事業)をやっているのかの確認や目標の見直しなどに、評価を活かすことが求められる情勢にあります。

評価の原義に立ち返って見ますと、評価は評価対象の価値を引き出すものであります。E(取り出す)+VALU(E)+ATE(動詞化)です。つまり、評価には目的があります。一つには、評価目的によって評価のアプローチや内容は異なります。二つ目には、「説明責任」のための評価だけが評価ではない、ということです。誰が何をしたいのか。このことを明確にすることが大切であります。体系づけたり、ヒアリングなどにより、誰が何をしたいのか、生の声をキャッチすることがポイントとなるのではと考えます。

ここでプロジェクト活動の一例を挙げてみます。聴覚に障害のある人たちに、リアルタイムで文字情報を提供するプロジェクト活動を立ち上げて実践しているとします。支援活動側は、支援を受ける側に、「支援はどうでしたか」「どんなことに困っていますか」などのアンケートやヒアリングを行うことを通して、評価報告という形で体系的にまとめ上げることが求められます。その場合に提供者側からすれば、リアルタイムの情報提供、これほど利便性の高いものは他にはないだろうと自負していたとしても、受ける側から予期せぬリアクションがあるものなのです。生活の一部の時間帯だけではなく、もっと幅広く友達と遊んでいる時など、色々な時に文字情報が欲しい。個性とニーズの数だけの要望が返ってくるものです。評価は一面的なものではないということになります。

Plan(計画)⇒Do(実行)⇒Check(？評価)⇒Action(改善)とよく言われています。Check・ここが「評価」という認識からは離れなくてはなりません。「評価」はプロジェクト活動(事業)運営の全ての局面(P、D、C、A)で実践することが肝要ではと思います。



とある一通のメール

パソコンのディスプレイに、コーヒーカップの絵が現れてきます。「タイプミスが目立ちますから」と小休止を促しています。黙殺してパソコンと向かい合っていると、しつこく小休止を促します。そんな日々が続き、図録の校正編集作業も9合目までたどりついたある日の夜半前、メール着信のサインが点灯。こんな夜遅くにどこから？またぞろCMかなんかだろうと思いつつ開いてみました。当会を支援してもらっているある公益財団法人事務局の方からです。それは次のような内容でした。

□いつもお世話になっております。(公財)〇〇機構の◇◇です。

本日ちょうど、「ネイチャーなら3月号」が届き拝読したところです。以前のメールで頂いていた「資金は『志金』」の意味や背景が胸にストンと落ちるように入ってきて、鈴木様の原稿にとっても感動してしまいメールをさせて頂いている次第です。私はとても楽しい仕事をさせて頂いていますが、それでも楽しい事ばかりではなく、上手いこと、思うようにならないことの連続です。鈴木様の文章に触れ、この仕事をできてよかったなあ、といま改めて思うことができます。

本当にありがとうございます。明日もまた頑張れそうです。

□思わぬ人から思わぬエール。ここ数日間、ずーっと椅子に座りパソコンとにらめっこしているうち軽いエコノミー症候群になりかけていた時、助成金を提供する立場の方から、まさか——。そっと自分の胸の中に納めておこうかと考えましたが、強く感じるどころがあり、関係の方々に転送しました。ある方からは、「涙がこぼれそうになった」と感動の返信がありました。

□ICTだAIだなどという時代。そんな技術先行時代に生きるからこそ、立場の違いを超えて各々が志を同じくすること、つまり共鳴しあうこと、心の響き合いがどれだけ大切なことか。胸に熱いものを感じつつ再びパソコンに向かいました。

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

2月21日(木) 活動 曇り 75名

シイタケイベントも目前。里山 G では、シイタケ用のホダ木をはじめ植樹や遊びの森の準備で大忙し。また昼食後にはイベント向けの最終調整が行われる。打ち合わせでは先日の「語り合う会」の報告の他、交通費補助や会費の納入の件についても依頼がある。里山 G はホダ木作りと運搬の他遊びの森の準備、エコ G は畑へのチップ入れと野菜の収穫、そして景観 G は竹林整備を行う。また



バイオ班は西池の葦の刈り取り、花班は草取りと寒肥入れ、パト G は4コースのパトロールと階段用の杭作りを行う。

2月23日(土) イベント 晴れ 37名+37名

イベント日和になった。10時の開会式そして記念撮影の後、早速午前の部が始まる。2班ずつに分かれ、シイタケの菌打ちとコナラの植樹に取り組む。リピーターが多いせいか、作業も順調にはかどる。昼食で心づくしの豚汁と天ぷらを堪能した後、午後の部の会場に移動。遊びの広場での森の山遊び、そして BC でのコースター作りとこちらも好評。参加者の楽しそうな声がサイトに響く。楽しい一日の活動も瞬く間に終了する。

3月1日(金) 振替活動 晴れ 61名

野外の活動も快適になる。ただ参加者は若干少なめ。打ち合わせは会長から助成金の原点に関わる話の他、シイタケイベントの報告や新入会員歓迎会の打合わせの件等が中心となる。またテント完成に伴う備品移動のお願いも行われる。里山 G はイベントの後片付けや薪割り、エコ G は野菜の

収穫の他ジャガイモの植え付け準備、そして景観 G はチップパーを使つての竹林整備を行う。またバイオ班は東池の水抜き、花班は桜の下草取り、パト G は階段補修と1コースのパトロールに出る。

3月7日(木) 活動 曇り時々雨 72名

協働活動日。シイタケの菌打ち作業も無事終了。

午後には雨も降り出し、G の作業は中止。しかし景観 G のように作業を続けたところもあった。



また、新入会員歓迎会の担当者の打ち合わせやミーティングも行われる。打ち合わせでは協働活動の趣旨が改めて説明された他、交通費支給や会費納入のお願い等が中心となる。里山 G は菌打ちとホダ木の運搬、エコ G は畝つくりと野菜の収穫、景観 G はチップパーを使つての竹林整備を行う。またバイオ班は西池の水処理、花班は桜の木の追肥入れ、そしてパト G は2コースのパトロールと A 地区水路橋の補修・ミーティングを実施。

3月14日(木) 活動 晴れ 84+4名

朝は寒いが、日中は暖かくなり活動しやすくなる。打ち合わせでは図録発行の件などが中心になる。また近大の学生が以前とったアンケートの結果について報告する。本日から新入会員1名。里山 G はホダ木作りや天平祭の準備、エコ G は野菜の種まきの他ジャガイモの植え付け、そして景観 G は大通りの竹の後片付けを行う。またバイオ班は池周辺の樹木の剪定、花班は草取りと腐葉土入れ、パト G は3コースのパトロールと丸太階段の補修を行う。その他、果樹班は果樹のネットの補修を中心に活動を行う。



私のふるさと



こころの故郷

— 柳本 —

徳地 恵男

私のふるさは、天理市柳本町です。天理市と桜井市の境にある小さな町です。

昨年 11 月、ならやまの月例研修会で龍王山に登りました。そのスタート地点が JR 柳本駅でした。駅からまっすぐ東への通りには、昔「柳本商店街」として薬局、魚屋、傘屋、駄菓子屋などがありましたが、今は民家が変わっています。上ツ道(上街道)を通過して、民家が途切れる北側に池があり黒塚古墳が見えます。1998 年、この古墳から画文帯神獣鏡と三角縁神獣鏡 33 面が発掘され一躍有名になりました。石室や副葬品が作られた当初の姿をとどめ、見学者の列が柳本駅まで続きました。私の子供の頃の『くろづか』は友達との遊び場でした。チャンバラごっこや基地あそび、ザリガニ釣りなど、走り回って遊んだ小山の下にたくさんの宝物が埋もれていたことが不思議です。



黒塚古墳のすぐそばに母校の柳本小学校があります。創立明治 7 年の歴史のある小学校です。当時の校舎の一部は『ごてん』と呼ばれ、柳本藩で使われていた「表向御殿」が校舎として使われていました。中は暗く、廊下がキュッキュッと鳴つたのを覚えています。今は校舎がすべて建て替わりました。登下校時には地域の方がたくさん立って子供たちを見守る体制ができています。地域と共にある学校づくりを目指している様子が伝わっ

てきます。

柳本小学校から東に進むと正面^{あんどんやま}に行燈山古墳があります。ヤマト王権の創始者といわれる第 10 代崇神天皇の陵墓で、全長 242m の巨大な前方後円墳です。その堤からは西に向かって大和平野が一望できます。二上山から信貴山に続く低い山並みに沈む夕日が空一面を真っ赤に染める時の美しさは格別です。日暮れまで遊んで家路を急いだ日々が懐かしいです。



さらに山裾まで歩いていくと長岳寺があります。山門近くにある天理市トレイルセンタ

ーは山の辺の道の中継点になっています。長岳寺は弘法大師のお寺で、桜や平戸つつじ、かきつばた、もみじなど四季折々の花が楽しめる美しいお寺です。日本最古の鐘楼門や玉眼を使用した仏像も知られています。長岳寺ではシイの実をよく拾って食べました。小学 4 年の時もみじの木にとまっていたセミの幼虫を見つけました。大事に家に持ち帰って背が割れて羽化する瞬間をじっと見た思い出があります。セミは殻から体を出し、しわのよった羽が伸びてきて白く輝いていました。クマゼミかなと期待したのですが、だんだん羽は茶色に変わりました。いのちが生みだされる瞬間を初めて見たときどきした時間は今も心によみがえります。私の子供の頃の生活は、野や山、川や池など自然が相手でした。今活動させてもらっている「ならやま」は私の子供時代につながる懐かしさがあります。野山を活動の場として仲間と一緒に気持ちのいい汗を流し、たき火に当たったりお日様の下で昼ご飯を食べたりできるのはこの上ない貴重な時間になっています。

長岳寺から登って龍王山頂(586m)近くの展望台から大和平野が一望できました。眼下をたどっていくと真下に私のふるさと柳本が見えました。柳本はいつまでも私のこころの故郷です。

里山グループ

菊川年明

里山の今**エコファームグループ**

池山怜子

◆ 最近のならやま里山林

私が本会に入会したのは平成20年4月で、本会がならやまに進出してから、ほぼ1年後である。当時のならやまは、平地の大部分は丈余のメタケと雑草が生い茂り、山中は大木化したコナラなどで薄暗く、地表はアカマツなどの枯木、倒木で、歩くこともままならぬ状態であった。

そのような状況から、初期の作業はメタケ、雑草の刈り取りと、枯木、倒木の処理が中心であった。当時のならやまは、30人に満たないくらいの人員で作業に当たっていた。

平成23年だったと思うが、コナラなどの大害虫カシノナガキクイムシ（以下、「カシナガ」と略す）が若草山周辺の雑木林に襲来したと報じられた。カシナガ被害がならやまに伝播するのは必至の情勢となり、同年からカシナガを早期に発見するための調査が始まった。

平成24年には、ならやまのコナラの木にカシナガの穿（せん）入孔が見つかり、たちまちのうちにナラ枯れ被害が広がった。平成29年にはナラ枯れは終息したが、被害を受けたコナラの倒木はあとを絶たずという状態になった。そして今も倒木・落枝は根絶に至っていない。

里山グループのコナラ調査によると、おおまかな数字でいえば「ならやま里山林」の区域で平成23年度に2000本近くあったコナラが29年度には1000本余しか残っておらず、減少の大方はナラ枯れである。枯死木はその都度処理されてきたが、大変な労力を注いでのことであった。

林内では、これまで、大きなコナラのために地表に日差しが届かず、コバノミツバツツジやモチツツジは生育不良で、しょんぼりしていたが、最近元気になり、春にはコバノミツバツツジが、そのあと初夏にかけてはモチツツジが、みごとな花を咲かせるようになった。カシナガのせめてもの罪滅ぼしであろうか。



◆ ファームの今

昨年の秋に種をまいた菜花が今を盛りに春を告げている。これが毎週、ほのぼのの市をにぎわしている。

「春の膳には苦みを盛れ」といわれるように自然の草木の芽吹きは、おのおの種の防衛のため、あくがあるのだとか。このあくを取らずに食すことも春の楽しみである。大和真菜、チンゲン菜、大根もとうが立ち始め花の準備をしている。これをごまあえ、白あえ、煮合わせのあしらい、バター炒め、また漬物などにも柔らかく最適である。

冬の間、おいしく楽しませてもらったYRくらま大根の後地を中西さんお得意の耕運機が活躍して、十分な堆肥もすき込まれて、次の作付け準備も万端整った。このファームの一等地に2月21日、かねてより念願のアスパラガスが植え付けられた。この株はかなりの高価だと聞いてびっくり。3株を15株に分け、30cm以上もあるたこ足状に広がった根を出来るだけ伸ばし植え付けた。オッとその前に長い根が乾いているので、バケツに水を張り、株に水分を含ませるのだと声が飛んだ。

ここからは少々調べた知識。植え付けて1年目は収穫を控え親茎として残し、地上部を茂らせ、光合成によって根に養分が蓄えられるようにするのだそうだ。アスパラの株には雄株、雌株があり、それぞれ雄花、雌花が咲き、雌株は受粉後、実がなり種を残す。雄株には実はならず、その養分は地下茎に回るため翌年の若茎に寄与し、収穫量に影響するという。アスパラガスには疲労回復や新陳代謝を促進する効果があるともいわれるアスパラギン酸が豊富に含まれている。また穂先の部分には、毛細血管を丈夫にし、動脈硬化の予防や若返りに期待できるという。プロジェクトメンバーには、まさに夢の野菜である。この先、10年から15年は繰り返し収穫を楽しめる。そのためには支柱や敷きわらなどを怠らず夏場の乾燥対策、追肥など長期の管理が大切だそうです。

景観グループ

田中 善英

◆里山の水辺の風景（里の池）

J Rの線路をくぐると「ならやまの自然」が見えてきます。初めに目に入るのが西池、どじょう池、蓮池などの水のある風景。そして、その先に目をやると里山の草木の緑が広がっています。

この場所を知ってから5年、ならやまの水や土に触れるようになって1年余り。このごろは「水は手ごわいなあ」と思うことが多くなりました。

西池から東を見るとこの土地は谷底に見えます。水はけが悪く、この地を利用するためにならやまの外に水を排出する山裾の排水溝があります。でも西池やどじょう池などの池にすんでいる水生の動植物には安定的な水の供給が必要なため、排水溝から再び水を引き込んでいます。

他にも水が染み出ており、このような複雑な水の流れを可能にするための先人の知恵があちこちに見られますが、水は素直に言うことを聞いてく

れません。池に泥が流れ込み、また、湿地は水がよどんでいます。

里山は人が利用し、共存する自然であり、人の

手が入らないと維持できないといいます。

では、里池と人との共存とは何でしょうか。

私の田舎では、池というと農業用水用のため池であり、そこで魚を養殖して冬の池ざらいで一網打尽にしてみんなで山分けというのが一般的でした。でも、ならやまの里池はならやまの自然に溶け込む里池であり、水辺だと思います。

人のできることは限られます。手ごわい水の流れと折り合いをつけながら、里池に安定的に生物に適した水を供給するルートを作ること。そして、ただ生物が集まり、繁殖するのを待つことです。

先日、アオサギが西池に来ました。カワセミも来るそうです。先人の努力が実り、里池が「ならやまの風景」になり、生物があふれることを楽しみに、先人の知恵を得て、また、試行錯誤を繰り返しながら水のある自然を楽しみたいと思います。



里山の今

パトロールグループ

菊川 年明

◆4月の観察路

4月の観察路は、サクラの花と前後してコバノミツバツツジの濃いピンク色が里山林を彩ります。最も美しいのは実りの森の奥の松山平と名付けている地区です。小さなアカマツが生えているだけで、日当たり抜群の環境がコバノミツバツツジの生育に適しているのでしょう。

その他の区域では、従来は大きくなりすぎたコナラの木に日差しが遮られて、コバノミツバツツジはわずかに生命を保つのが精一杯というありさまでしたが、ならやまにカシノナガキクイムシが襲来し、コナラの大木をどんどん枯死させましたので、その結果、上空を覆うものがなくなり、日当たり良好の箇所が随所にできました。今までしょぼりしていたコバノミツバツツジが元気になり、みごとな花を咲かせるようになりました。カシノナガキクイムシが残っていた唯一の置きみやげかもしれません。

コバノミツバツツジ

地表ではシハイスミレ、ニオイタチツボスミレなど、いろいろなスミレが咲きます。



観察路のトピックスは、第3コースの、登り口からコシダの辻の間にある観察路で随一の急傾斜のところに、頑丈なはしご式の階段を設けたことです。パトロール班の私を除く男性陣が総掛かりで、活動日を4回費やして完成させたものです。何分にも動力運搬車も入れないところですから、



はしご式の階段

資材を運び上げるだけでも大変な作業でした。

ならやま虫だより

菊川 年明

◆ツマキチョウ

飛んでいると、全身が白く見えるチョウで、モンシロチョウより少し小さい。年に1回、春に現れるが、ならやまでは4月の中・下旬で、出現期間はかなり短い。

翅の表面はすっきりした白地で、前翅の先端にオスは黄色、メスは灰色の部分があり、前翅の中央部の左右に1対の黒紋がある。

後翅の裏面も白地だが、灰色の網目模様がついているので、枯れ草のところに止まっていると、保護色になって見つけにくい。

名前はオスの前翅の先端の色に由来する。ちなみに「ツマ」の漢字は「棲」で、端を意味する。たいへん可愛らしいチョウで、私は、毎年、このチョウが現れるのを心待ちにしている。

飛んでいる姿を見ると、一見モンシロチョウかなと思うが、少し小さいなと感じ、飛び方も少し違うなと感じる。飛び方はモンシロチョウのように上下に揺れることはなく、ほぼ直線的な飛び方をする。

このチョウの特徴でもあるが、なかなか止まらず、止まっても直ぐに飛び立ってしまうので、間近で見られる機会はあまり多くない。

モンシロチョウほどたくさんはいないが、気を付けていれば、さほど希なチョウでもない。一見モンシロチョウのようであるが、見慣れてくるとモンシロチョウとの違いがわかるようになる。

幼虫の食草はタネツケバナ、ナズナ、イヌガラシなど、栽培種のダイコンなども食べる。



ツマキチョウのオス



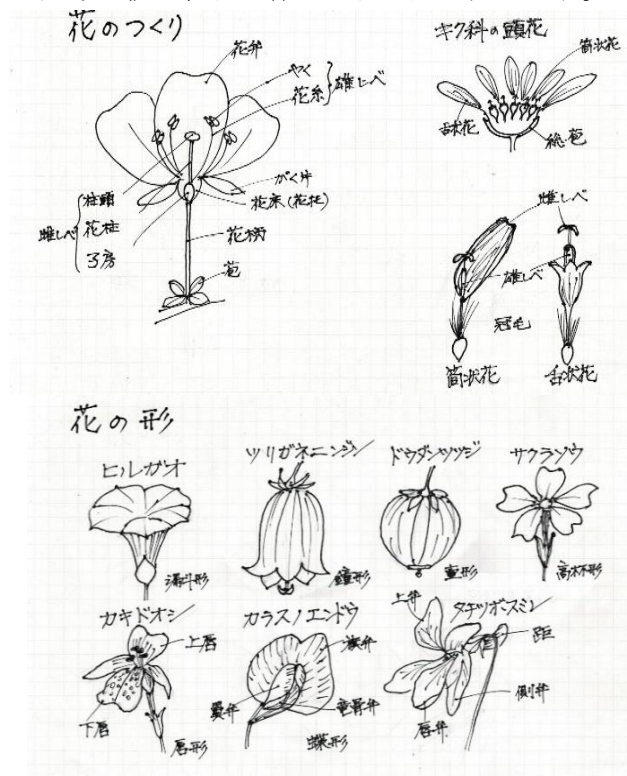
ならやま花だより

桜木 晴代

枯野から花園へ変化する季節。フィールドはオオイヌノフグリ(右下)ホトケノザ(左上)タンポポ(右上)ヒメオドリコソウ(左下)たちの競演の季節。春の到来を告げる花々です。



オオイヌノフグリは星の瞳・瑠璃唐草というカレンな別名もあり、日が当たっている時だけ咲く。前号に続き、花の作りと花の形を記します。



個性豊かなカレンな花たちです。

(図は山と溪谷社等の図鑑から模写しました)

ならやまトーク・投句（早春編）

こち

東風を背に佐保へと通う足軽し 小山喜子男

（毎週木曜日、滋賀県草津市から、はるばるならやまへ通う。
八二才の意気込みに、早春の風が背中を押す。ますますお元気で）

朝礼の児童のごと梅蕾

羽尻 嵩

（今朝は寒さが緩む。梅の枝に一段と膨らんだ蕾が並んでいる。
朝礼で生徒が整列しているようだな）

梅の香に一輪車止め野良の朝

岡田安弘

（畑へ鋤を運ぶ仲間、脇から漂う梅の香に、思わず足を止める）

春寒や花壇の女性ひとの頬紅し

岡田安弘

（花グループは花壇で作業。風はまだ冷たく女性たちの頬が紅い）

水温む賄いの手の優しさに

青木幸子

（今日は賄の当番。この間まで手が切れるようだった水が、心なしか温んでいるように思える）

チェーンソーの山に響きて春近し

坂東久平

（里山も心なしか色づいてきた。ならやまでは椎茸の櫓木づくり
に忙しい。チェーンソーの音があちこちから響く）

投句歓迎（古川まで）

誘われて道草するや路の藁

鈴木末一

（田圃道、陽の当たる斜面に覗くフキノトウ。あの頃学校帰り
道草してよく叱られた。春の香りにちよつと道草してみるか）

ランドセル背中で踊る新学期

鈴木末一

（「行つてきまーす」新しいランドセルが、背中で踊っている）

とき はるご

季節来たる春子の頭むくむくと

古川祐司

（一雨ごとの暖かさ。灰色一色だった櫓木の棚には春子が一斉に
頭を出す。明日の椎茸イベントは晴。「春子」は春の椎茸）

里山に戯むる子らや春の風

八木順一

（椎茸イベントでの山遊び。四十名以上の親子が里山を楽しむ）

里山を親子で植える苗木かな

古川祐司

（コナラの伐採跡に苗木を植えて記念写真。大きく育った木と
親子のイメージがオーバーラップする。木を植え、人を植える）

凍尾根にアイゼンの音小気味よき

中井弘

（霧氷の白髭山。凍結した尾根を登る。アイスバーンをアイゼンの
刃が小気味よく噛む。その音やよし）

ならやま西池の生き物の移り変わり 水生生物調査グループ

木村 裕

ならやま西池は湿地を掘り下げて 2010 年の春に開設された池で、水生生物の調査はシニア自然大学校の指導を仰ぎ、その年の夏から開始されました。池の管理方法、調査方法は年次によって若干相違はあるもののほぼ同一方式の調査が継続されています。

2011 年度はアオミドロが大発生して調査に苦勞をし、秋にはアオミドロの腐敗によるヘドロの堆積で池の維持管理にも苦勞をしいられました。しかし、池での生き物はアオミドロの多かったのが幸いしたようで、いろいろな種類がつぎつぎに見つかり調査スタッフを喜ばせてくれました。だが翌年以降は移動性の少ない生き物が主体で、他所から飛来してくる昆虫は非常に少なくなっており、調査スタッフにとっては少し物足りません。

池の定住者は、エビが 2 種類、ザリガニ、カワニナ、タニシ、ミミズで、オタマジャクシは年次によって発生量の差が大きい。

魚類では、ドジョウに気に入ってもらったようで、毎年成魚が見つかっています。ときどきニッポンバラタナゴとシマヒレヨシノボリが手に手を携えて上の養魚池から脱走してきます。

エビは、ミナミヌマエビが毎年一大勢力を保っています。スジエビはミナミヌマエビの 1/10 程度

で勢力争いには勝負がついたようです。

池の名主であるザリガニは、年次によって個体数にかなり変動があるものの量的にはそれほど多くない。調査時に捕獲された個体は、他の生き物を保護する観点ですべて殺処分しているが密度抑制にはあまり影響はないと思う。

ヒメタニシは池開設当初はいなかったのだが、2012 年に初めて見つかり、近年増加の一途をたっています。とくに 2018 年度は多かった。

カワニナはもともと水路に住んでいたのだが、池の開設とともに水の流出口付近に住み着き、しだいに勢力圏を広げ、今では池全体に見られます。カワニナが増えたこともあり、ホタルは年々増加しています。

昆虫類では、マツモムシとコマツモムシが毎年見られて捕獲虫数も多い。エサキコミズムシとハイロチビミズムシは減少傾向が続き、とくに後者はここ 2 年ほど姿が見られなくなっています。

水生昆虫の中心となると思われたガムシ類、ゲンゴロウ類はときどき見られる程度で少ない。水面を走行するアメンボ、ヒメアメンボは健在で、毎年かなりの数が見られている。

トンボ類のヤゴは、池の開設当時はかなり見られたが、最近是非常に少なくなっており、そのせいで池面でのトンボの飛び交いも少ない。

詳細なデータはホームページの資料室にありますので興味のある方は見てください。

主な生き物の年次別捕獲数

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
ミナミヌマエビ	49	403	676	5280	2654	3454	2834	1179	3791
スジエビ		2	1.2	42	205	136	192	133	169
アメリカザリガニ	36	79	126	99	47	95	192	6	44
ミミズ類		1	2278	248	320	140	552	215	63
カワニナ	7.8	9	169	88	91	351	304	272	593
ヒメタニシ			0.4		2.1	16	7.8	17	62
オタマジャクシ		56	119	31	30	4.3	56	1	37
マツモムシ	35	27	13	46	45	22	28	2	54
コマツモムシ	118	194	403	635	539	365	175	133	335
エサキコミズムシ		219	474	145	25	40	85	2	20
ハイロチビミズムシ	167	399	1746	615	3.4	9.5	23		



シイタケ菌打ちイベント報告

下村 晴文

3月23日(土)にシイタケイベントが開催されました。数日前の天気予報では、雨の確率が高くて、担当者をやきもきさせていましたが、予想に反して当日は天候に恵まれ、快適な一日を過ごすことができました。申し込みのあった14家族(小学校1年生から6年生までの子供22人、保護者15人)とスタッフ37人、総勢74人の参加者が、ならやまのベースキャンプに集合しました。午前10時からの開会式では鈴木会長のあいさつ、作業内容や注意事項の説明があり、最後に全員で記念撮影を行い、さあ、午前中の作業開始です。まず、参加者をコナラ植樹グループとシイタケ菌打ちグループの2班に分け、スタッフの案内で山の中に入っていきます。

コナラの植樹では、事前に掘られた穴の中に子供たちが、ドングリから育てたコナラの苗木を植えていきます。バケツで真砂土を運んだり、支柱の竹を打ち込んだり、子供たちには大変な作業で、特に支柱を固定する紐の結び方は、簡単なようで難しく、何回もスタッフに聞いて挑戦していました。最後に名前を書いたプレートを取り付けて完了です。何年か後に自分が植樹し、成長したコナラの木をみるのが楽しみようです。



シイタケ菌打ちは、ホダ木にドリルであけた穴に駒菌と呼ばれるシイタケ菌を木槌で打ち込んでいく作業です。



1本のホダ木に20カ所前後の穴に駒菌を打ち込んでいきます。シイタケ栽培には、数百本のホダ木が必要ですが、収穫と食べるのを楽しみに、小さな子供たちも1人で何本もの菌打ち作業を行っていました。グループごとに交代しながら、午前中の作業を終了しました。

昼食は、ベースキャンプでスタッフが用意した豚汁やならやまで採れた野菜の天ぷらなど全員で楽しく食べることができました。

午後からは、山遊びとコースター作りです。山遊びは、急ながけをよじ登った先にある遊びの森で、木登り、ブランコ、ロープを使った丸太渡りなど、子供たちが自由に遊べる場所です。



また、ベースキャンプでは、径10cm前後の丸太を厚さ1cm前後に切り、スタンプやサインペンで彩色を施し、マイコースター作りをしました。

今日1日、今までに経験したことない作業や里山での山遊びなど満足そうな顔の子供たちでした。最後に、アンケートを書き、お土産にシイタケ菌が入ったホダ木をもらって終了しました。



野良猫 「かあさん」

戸田 博子

去年のお盆も終わる夜のことでした。我が家の裏口のドアに何かが擦り寄る音がしました。食事をしていて私と母は、2人で顔を見合わせました。なぜかならそれは長年、外ネコの「かあさん」(勝手に呼んでいたが〜)が、食事に来たよという合図なのです。

「かあさん」は、4年にわたり子猫を産み、我が家のドアに来て鳴き、ご飯をもらっていたネコだったのです。4年目には私が捕獲して、獣医さんで避妊手術をしてもらいました。4年の間に連れてきた子猫は6匹。しかし、1年足らずでみんな姿を消してしまうのです。

ネコをよく知る人によると、具合が悪くなったり事故に遭ったりと、野良猫は10匹に1匹しか育たないそうです。

子猫がいなくなっても、「かあさん」は定期的に朝・晩とご飯を食べにきました。ドアに擦り寄り、遠慮がちに「ニャア、ニャア」と鳴きます。野良なので警戒心が強く、私が見ているとご飯を食べません。いつもご飯を出すとすぐドアを閉めて耳を澄まします、かすかに「カプ、カプ」と食べる音が聞こえて安心する、そんな関係のネコでした。

一般的に野良猫に「エサはやるな!」といわれますが、我が家では「かあさん」以外に、20年以上にわたって、庭に現れた猫にご飯をやり続け、雌には避妊手術をしてやりました。

言い訳がましくなりますが、野良猫だけでなく、実際に家でも3匹のネコと数匹の犬も飼いました。全てペットショップから連れてきたのではなく、縁あって我が家の庭や裏の公園に現れた動物たちです。

よく、猫は死ぬときは、どこかに行ってしまう、姿を残さないといわれますが、姿を消した子猫を除いて6匹が、庭で最後を迎え、木の下に埋めています。

ところが10年通ってきた「かあさん」は、去

年の1月に来なくなりました。外の猫としては寿命かとも思い、どこかに倒れていないかと捜しましたが、見つけることはできませんでした。

私の母は「かあさん」だけ看取ってやれなくて残念だったと、しばらく悲しい思いをしていました。

あの夜、裏口のドアで、その「かあさん」とも思える音がしたのです。窓から静かにのぞきましたが、何もいません。その時は、ほかの猫が通りすぎたのだらうと、自分の気持ちを納得させました。

「ちがう!」

あれは「かあさん」がお盆のあいさつに来て

「ごめんね。黙って逝ってしまっ

とあいさつに来たのだ!

私は超常現象は信じないタイプの人間ですが、ならやまの木や植物、昆虫、鳥などの生き死にを観ているから、こんな気持ちにさせられたのかと思いました、

今は、自分の寿命の残りを考えると、無責任に動物を飼ったり、エサをやったりできなくなりました。

人間の見えないところで頑張っている、イタチやタヌキの気配を感じて満足しています。人間にとって、不都合な生き物であっても、それは必死で生きていると思います。ハチ、ムカデ、ヘビ、カなど害を与えるといわれている生き物も、一般の人たちの生活に大きな迷惑をかけない範囲で、自然の中で生き残って欲しいと願っています。

無理な願いでしょうか。





木村 裕

バナナのお話し

バナナは私たちが子供の頃は高級品でなかなか口には入らない果物でした。しかし今日では栄養豊かで安価な大衆の代表的果物となり、いつでもどこでも手に入ります。もちろん有機栽培のブランド品もありますが。

これらのバナナはどこからやってきたのでしょうか？ 台湾をはじめ東南アジアの各国で広く栽培されていますが、輸入量の多いのはフィリピン産です。また南米のエクアドルからもたくさん輸入されています。青くて堅い未熟のまま運ばれ、日本に着いてから後熟処理をされて黄色の果実となって市場に並びます。

バナナは寒がりやで日本では育ちませんが、一年中暑い熱帯地方ではいつも元気で葉を茂らせ、たくさんの果実をぶら下げています。現地の農家では庭先に何本も植えられていますがこれは自家用で、輸出用ではありません。



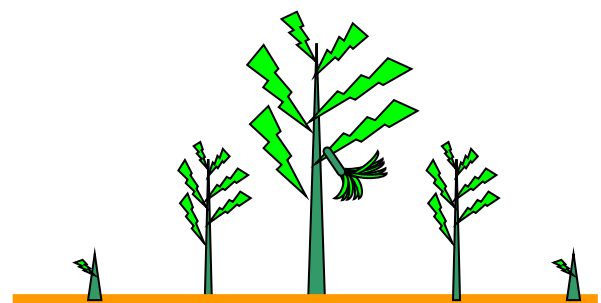
輸出用のバナナは果物専門の商社が大きな農園で大々的に栽培したものです。どこまでもバナナ畑が広がり、栽培から収穫・出荷まで一貫したシステムで周年収穫が続けられています。畑から集荷場までは太い鋼鉄のロープが張り巡らされ、そのロープに収穫された大きなバナナの房が吊るされて運ばれ、集荷場で洗浄・カットされ箱詰めになれ出荷されます。

バナナは一段目の花が終わると二段目の花と順次咲き上がってゆきます（厳密に言えば頭が垂れるので下がってゆきます）。必要な段数に達すると先端部は切り取って色テープを巻きつけます。今週は赤、次週は青、という具合に色を変えてゆきます。収穫時期は開花後何日目と決まっているようで、この色テープが目印になっています。さらに病害予防のため果実の房全体に袋掛けも施されます。

質問です。バナナの樹？は私たちの背丈を超えるほど背高のつぼですが、収穫を終えると株はすぐに枯れるのでしょうか？ さらに丈が伸びて次の花と実をつけるのでしょうか？ それとも丈はそのまま翌年も同じ個所に次の花をつけるのでしょうか？ わかるかな？

話は変わりますが、私たちが食べているバナナは生食用ですが、バナナの産地の熱帯地方では、甘くない加工用のバナナがたくさん栽培され、焼いたり、蒸したり、揚げたりして主食として利用されています。どちらかといえば加工用品種が重要視されています。

質問の答えは、バナナは樹ではなく、カンナのような宿根性植物です。すぐには枯れませんがお役ごめで、収穫後の株は惜しげもなくぼっさりと切り倒され、株の周りからタケノコのように伸びてくる新しい株にバトンタッチします。通常、果実が大きくなる頃には、親株の周りの地面からは新しい芽がいくつも顔を出しています。その上に中くらいに育った株も数本あります。常に親、若者、赤ん坊の3つの生育段階がそろっています。なお新芽はたくさん出ますので、適当に間引きします。もちろん掘り取って新しい土地に移植することもあります。



子 → 若者 → 親



▲水彩画「絵の具」 永井 幸次



▲写真「ニュージーランド南島
アルプスの山々」 千載 輝重



▲水彩画「長岡天神梅林にて」 八木 順一



▲クラフト「寄せ木木工」
植野 益行



▲クラフト「雛人形」 桜木 晴代

皆さまからのご応募お待ちしております。
絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸作品・パッ
チワーク・切り絵・自然工作など。

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
活動予定日

4月	4(木) 11(木) 18(木) 25(木)
5月	2(木) 9(木) 16(木) 23(木) 30(木)

- ◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約16haの里山林地（県有林）
- ◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分
 - ② 近鉄奈良駅：バス13番乗り場 115系統
8:28発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅：バス1番乗り場 115系統
8:36発 JR奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩7分

- ◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）

- ◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。

- ◆連絡先：八木 順一 0774-55-4044



里 山

4/4 協働活動・アダプトプログラム

11 18 25

里山林内整理

台風被害木の伐採・枝の整理

薪割り

イベント準備（天平祭）

景 観

4/4 協働活動・アダプトプログラム

整備：筥掘り（実り、佐保、彩り、BC各竹林）

ビオ班：池整備

花：コオニタビラコ、ゴギョウ移植と真砂土入れ

11

整備：筥掘り（実り、佐保、彩り、BC各竹林）

ビオ班：水生生物調査

花：すべての冬囲いの撤去と草取り、施肥

18

整備：BC周辺整備／筥掘り

ビオ班：池整備

花：日蔭植物園の整備と施肥

25 整備：実りの森／佐保自然の森整備

ビオ班：池整備

花：山野草園草取り施肥

エコファーム

4/4 協働活動・アダプトプログラム

茄子、唐辛子、トマト里芋畝作り

11

里芋植え付け／サツマイモ、ラッカセイ

夏野菜畝作り

実エンドウ豆カラスよけネット張り

18

カボチャ、エダマメ、つるなし三度豆畝作り

ラッカセイ播種

25

茄子、唐辛子、カボチャなど植え付け

黒米、苗代作り

パトロール

4/4 協働活動・アダプトプログラム

2コースパトロール／放置伐採木片付け

丸太階段補修／ミーティング

11 3コースパトロール／会員向け観察会
（ミツバツツジ、ショウジョウバカマ）

18 4コースパトロール／観察路整備

25 1コースパトロール／観察路整備

行事案内



平城京天平祭春 2019

坂東 久平

『ものづくり広場』出展参加

天平祭実行委員会よりの申し出を受け、昨年に引き続き、平城京天平祭・春 2019『ものづくり広場』に下記内容にて出展参加いたします。

1. 日時：5月4日(土)・5日(日)10～16時30分
2. 場所：世界遺産・平城宮跡内
朱雀門ひろば(二条大路西側)
3. 出品：楽しい自然工作(鯉のぼり、ジュズダマ、ブレスレット)1日各100セット
4. スタッフ募集：
5月4日、5日、それぞれ15名のスタッフを募集いたします。

(連絡先：辻本携帯：090-4450-8459)

5. 雨天決行

ただし、気象警報発令などにより、開催が困難な場合は、主催者の判断で中止を決定。

『ものづくり広場』では、平城京天平祭にたくさんの子供たちや大人に来ていただき、ものづくりの大切さ・楽しさを体験し、学んでいただきます。当会では、趣旨に賛同し、子供たちの創造力を育み、お父さん・お母さんと一緒にものづくりを楽しんでもらえる出展をめざします。ぜひ皆さんもご家族と一緒にお願いします。

5月ならやま活動&行事予告

* ならやま活動 (木)

5月2日 協働活動日・アダプトプログラム

* 歴史文化クラブ (マイクロバス)

5月14日(火) 馬見古墳群と橿原市博物館
馬見古墳群と新沢千塚古墳群を歩く

* 自然教室 (自然観察会)

5月20日(月) 新緑の歌姫街道・佐紀古墳群

* イベント 天平祭参加(上記に案内記事)

5月4日(土)・5日(日)

薬師寺・東塔水煙

国宝薬師寺東塔の解体修理は、2011年に工事が始まり、2012年には塔頂にあった相輪が地上に降ろされた。実に60年ぶりのことである。

塔本体の調査・修理と並行して、相輪の調査が行われ、現状でも使用可能であるが、次回の解体修理(300年後と予想される)までは保たないことが分かった。

今回は、水煙4面と擦管(さつかん)1個とが新調され、2月8日に新旧・水煙と擦管の公開と、製作にたずさわった村上隆氏(京都美術工芸大学 副学長)の講演が行われた。



なお、一般公開は薬師寺にて「東塔水煙降臨展」として、3月1日から10日まで行われた。

水煙の製作年代については、今も専門家の間で、「本薬師寺から移された」「薬師寺が平城京に移されたときに新たに造立された」と見解が分かれている。

復元にあたり、現状保全の理念に基づく修理を行い、修理不可の場合は理念に基づき新調し現物は別途保存をすることになった。

調査は、最新技術を駆使した多岐にわたり、X線ラジオグラフィー、蛍光X線、構造分析、3Dデジタル計測、ICP発光・ICP質量分析による材料の組成、Spring-8による含有金属の組成や結晶形分析が行われた。主な組成は、銅93.8%、スズ2.8%、ヒ素2.4%、銀2.0%などと判明した。

この過程で製作の技法なども解明された。これらの結果を基に、高岡の鋳造所にて新たな水煙と擦管が造立され、色相も塗装ではなく自然発色で現状に近くなるよう工夫された。

(註) 擦：塔の中心の柱、塔の落慶は2020/4/22

平成31年・3月度幹事会報告

日時： 2月26日（火）14:00～16:30

場所： 奈良市中部公民館 2F 学習室

出席者：21 名、欠席者：3 名

(議事録よりトピックスのみ)

I 会長挨拶

会長の任期が残り 1 年となり、3 年間の総括と今後の運営についての所信を表明された。

- *ならやまプロジェクトの推進体制
- *会員のスキルアップ
- *後継者の育成

II 事務局・会計報告

会員数：172名

1 月度会計報告（年度末：3/21 仮締め）

III 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

- ・ 3か月と当月スケジュールの検討と確認
 - * 詳細は、メール連絡又は HP に記載
- ・ ならやまプロジェクト関係
 - * 継続会員会費の納入は、3/7 より受付
(従来通り 3 月末までに徴収)

IV 企画・助成金関係

1. 図録集編纂：3月中旬に最終校正
2. 各助成金の活動内容の報告。(羽尻副会長より)
チッパー機の購入が決定
3. キッズランド構想：佐保自然の森を活用

V 喫緊・提案事項

- ・各 G から提出の平成 31 年度活動計画と予算案については、臨時幹事会で取りまとめる。

VI 広報関係

- ・会報誌4月号編成案承認(16ページ)
1月から、メール便が値上がり

VII 報告・連絡、その他

- ・活動報告と予告：詳細は会報誌掲載
(月例研修会、自然教室、歴文研修会、
「語り合う会」、「シイタケイベント」)
- ・新入会員歓迎会 3/21 (幹事：桜木、戸田、中川)
- ・第 18 回通常総会開催 5/18 (中部公民館)
終了後、リガーレ春日野にて懇親会。
- ・4 月度幹事会 3 月 26 日

◆ 申し合わせ ◆

* 通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日
19時前のNHKの天気予報（奈良気象台17時発
表）で、当該地域の午前の降水確率が **60%**以
上の場合、中止とします。

お問い合わせ:八木(TEL 0774-55-4044)

* 通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜日】を振替活動日とします。

* 臨時活動日を月曜日にすることがあります。
(事前に担当役員から連絡します。)



◆雛（ひな）祭り

桃の節句は、七草・端午・七夕などと並ぶ五節句の一つで、女の子の健やかな成長を願う行事です。

起源は古来中国の^{じょうし}上巳節で、上巳とは、3 月最初の巳の日という意味です。

大和郡山のひな祭りを見に行ってきました。近くにいながら知らなかったことが多く、歴史の古さを物語る建物やおひななどに感心しました。

秀吉の弟・秀長は、100 万石の城下町の繁栄を目指し、外堀内側の内町十三町にさまざまな特権を与え、自治権を認めました。この地区は、郡山の誇りで、生活文化の花を開かせました。



帰途、立ち寄った菓子屋に寒緋桜の立派な盆栽があり、見頃となっていました。

(行々子)

会報誌[ネイチャーなら]・第207号

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集 Mail :hennsyuu@naranature.com

編集者一ム：青木（幸）、青木（芳）

千載、澤田、田代、戸田、山崎、坂東

表紙写真 「そば畑のチップ入れと耕起」

実りの森でソバ畑の耕耘をしてチップを入れました。そば文化クラブは、シッカリと土作りをして、大量の収穫をすべく、頑張っています。

以上